

新化 *Let's Fight Together!* 進路通信第6号

9月になりました。猛暑の予想は当たったのか外れたのか微妙なまま夏が過ぎていきました。始業して2週間、健康な姿で登校できることの大切さを再認識してください。

武義高に関わるすべての人にとって、とても忙しい日々が始まりました。残暑は厳しく、コロナ禍も続いています。一気に気持ちを高めなくてはなりません。

課題テスト、学校祭（文化祭）が終わり、月末には期末考査があります。3年生は就職試験の本番を迎えます。進学の方は大学入学共通テストの出願も始まります。すでに総合型入試や学校推薦型入試に突入する人もいますね。合間に模擬試験もあります。

学力、体力、気力、集中力。コミュニケーション能力や発想力、行動力。加えて自己管理能力や事務処理能力も必要です。総合的な人間力といってもいいでしょう。すべてのことを精一杯こなしていく中でいろいろな力が養われます。たいへんかもしれません。でも社会に出れば（大人になれば）全部できて当たり前。できる限り、自分の力で乗り切ってください。成功は自信に、失敗は教訓にしましょう。

《当面の進路関係行事》

- 9/6（火）3年生PTA就職面接指導
3年生進学希望者「大学入学共通テスト」出願説明会
- 8（木）2年生ビ情科 進路ガイダンス
- 9（金）10（土）3年生ベネッセ駿台共通テスト模試
- 11（日）全商英語検定
- 14（水）第1回進学校内推薦会議
- 16（金）就職試験開始
- 27（火）～30（金）前期期末考査

《雑感》

本校の総合編集部が発行する冊子「BETTY」。114号（文化祭号）のお題は『記憶』だった。

文化祭は2年ぶりだった。昨年は中止にせざるを得ず、直前まで準備してきた生徒諸君にはたいへん残念な思いをさせてしまった。高校には（普通）3年間しかいられない。すでに体育祭は中止になって時間が経過し、経験している現役生はいなくなった。記憶が薄れていく状況から考えて再開できるかどうかはなんとも言えない。「せめて文化祭は」という思いは武義高に関わるすべての人がもっていたと思う。なんとか実施すべく全員が動いた。ただ経験値の低さは否めず生徒にもスタッフにも職員にも例年とは異なる困難さがあったと思う。

準備不足を時間は待ってくれない。加えて天候の不順やコロナによる不慮の欠員。期待より不安の方が大きいまま当日を迎えたのではないか。

その文化祭が終わった。私は傍観者であった（ごめんなさい）が、確かな出来映えと手応えを感じた。「武義高生ここにあり」と言いたい気持ちでいる。もちろん、満足した人ばかりではないだろう。トラブルや失敗、仲間割れや不満はあるのが普通だ。文化祭を否定したい人もいたかもしれ

ない。

だが、それがどうしたというのだ。文化祭ができたのだ。すべての人の記憶に残るイベントをあなたは経験できたのだ。文化祭があったことを忘れることはないだろう。その事実を超えるものはない。

記録に残ることと、記憶に残ることがある。記録は破られるものだが記憶は残るものだ。

5年後、10年後のクラスメイトに再会したとき、「あのときおまえがさあ〜」で本当に高校時代の自分に戻れる時が来る。その時「なつかしい」という感情を実感できるだろう。人知れず練習したり作業したりした時間は自分だけの財産だ。思い出すだけで愛しくなるだろう。

2年ぶりとなった文化祭。「B E T T Y」の裏表紙は「祝 文化祭開催！」となっている。

(参加できなかった人にも、その人生に次の「文化祭」があることを願う。)

《おまけ》

「べんとう箱の歌」を知っているかな。「これっくらいの、お弁当箱に〜」といえは知っているだろう。その歌の歌詞で、「おにぎりおにぎりちよいとつめて」のところだが「おにぎり、おにぎり、ちよいと詰めて」だと思っていたら、「おにぎりを握り、ちよいと詰めて」ではないのか、という指摘を受けた。調べたら、「を握り」という歌詞を掲載しているものは(ネットには)見当たらなかった。ただ、「おにぎり」という言葉が「米(ごはん)を握り、」から派生したことは十分考えられる。この指摘をしてくれた人の言語感覚に感謝と敬意を伝えたい。

ところで私は「言葉は生き物」だと考えているので、「最近言葉が乱れている」と目くじらを立てることはない。誤用も定着すれば正解になるものだ(ただし志望理由書はそうはいかんぞ)。ただ、言葉が使われなくなり、語彙が貧困になるのは残念だと思う。その言葉によってしか表せない感情や、その言葉によって初めて伝わることがあると思うからだ。なんでもかんでも「やばい」ですませたくはない。みんなにも言葉への興味関心をもってほしいと思う。

言葉を学ぶことは古典を学ぶ面白さにもつながる。言いだせばきりがないが、古語に存在した形容詞の命令形が、現代語だと一語では訳せなくなった言葉や、尊敬語の命令形は現代では敬意表現ではなくなったことなどに気がつく、古典文法の勉強もおもしろくなる。基礎的な知識の習得も味気ないばかりではなくなるかも。単語の語源については古典の教科書にある「大鏡」にも「かみなり」や「おなら」についてヒントがあるように思う。

言葉は真似によってしか習得できない。新しい単語を創作するのは難しい。新しい単語や言い回しを「発明」しても、たくさんの人が真似をして使ってくれなければ言葉として定着することはない。とすれば、言葉はどんどん縮小していく運命にあるのかもしれない。

じゃあ絵文字は？ 自動翻訳器が普及したら？ 人間がテレパシーを習得したら？

10年後、20年後、100年後、1000年後に言葉はどうなっているのだろう。

アンパンマンの顔は老けていると思った。

「タローマン」を見た。笑った。

キャベツの中から青虫が生まれる歌を学んだ。

自転車に乗って何度も長良川鉄道を見に行った。

プールで遊んだ。

2022年の夏が終わった。